

奈良学芸大学

学 報

第13号

昭和29年5月 / 5日発行

主 要 事 項

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| ○人事異動 1 | ○教育奨学生の大きな福音 4 |
| ○昭和29年度文部省内地研究員決定 2 | ○昭和30年度入学希望者学力検査実施科目について 5 |
| ○昭和29年度科学研究費交付決定 3 | ○選抜方法のうち 5 |
| ○A級大学と判定される 3 | ○昭和28年度卒業生就職状況調査 5 |
| | ○昭和29年度入学生調査表 6 |

関 係 法 規

○省 令

第 8号 国民体育館使用規程の一部改正

(4.27官報)

○人事院規則

2—5 (人事記録)の一部改正 (4.1)

2—6 (人事統計報告)の一部改正 ()

9—8 (初任給昇格昇給等の基準)の一部改正 ()

10—1 (取買の健康診断)の一部改正 ()

14—4 (営利企業への就職)の一部改正 ()

14—8 (取買が官公庁以外の取務又は業務に従事する場合)の一部改正 ()

16—0 (取買の災害補償)の一部改正 ()

9—6 (俸給の調整額)の一部改正 (4.27官報)

○訓 令

第 3号 (任命権等の委任に関する規程の一部改正 (4.24官報)

○告 示

第46号 昭和29年度大学入学資格検定を施行する件 (4.15官報)

人 事 異 動

(文 部 省 発 令)

○4月 / 日

文部教官 (奈良学芸大学助教授)

堀 田 兼 成

奈良学芸大学教授に昇任させる

(学 内 発 令)

○4月 / 日

文部教官

宮 本 陸 治

伏 見 文 雄

川 井 清 久

池 田 源 太

吉 川 俊 夫

延 兼 教 之 助

寺 尾 勇 郎

文部事務官

茂 呂 勝 郎

昭和29年度企画委員会委員を命ずる

文部教官

宮 本 陸 治

伏 見 文 雄

林 忠 保

川 井 清 久

松 村 宗 治

池 田 源 太

吉 川 俊 夫

延 兼 教 之 助

寺 尾 勇 郎

松 本 喜 一 郎

(各 通)

昭和29年度人事委員会委員を命ずる

| | |
|-------|---------|
| 文部教官 | 宮本 隆 治 |
| “ | 伏見 文 雄 |
| “ | 林 忠 保 |
| “ | 松 村 龍 雄 |
| “ | 松 本 喜一郎 |
| (各 通) | 中 森 英太郎 |
| “ | 服 部 久 男 |
| “ | 久保田 勇 夫 |
| “ | 田 附 基 つ |
| “ | 近 藤 英 男 |
| “ | 上 田 敏 見 |
| “ | 横 田 利 平 |

昭和29年度教務指導委員会委員を命ずる

同 日

| | |
|---------|-----------|
| (心 理 学) | 高 橋 雅 春 |
| (体育理論) | 浅 井 浅 一 |
| (職業指導) | 堀 田 幸 一 |
| (労働法規) | 後 藤 清 |
| (林 学) | 沼 田 大 学 |
| (音 楽) | 大 淵 淳 序 |
| (物 理 学) | 結 方 惟 一 |
| (国 語 学) | 林 和 比 古 |
| (商 業) | 三 輪 禎 夫 |
| (書 道) | 辻 本 克 己 |
| (音 楽) | 吉 田 弘 子 |
| (“) | 加 藤 り 子 |
| (化 学) | 島 井 健 三 |
| (図書館学) | 田 中 敬 市 |
| (ドイツ語) | 高 畑 喜 市 |
| (英 文 学) | 小 泉 卓 藏 |
| (英 語 学) | 島 坂 欣 一 |
| (国 語 学) | 門 前 眞 一 |
| (宗 教) | 遠 山 公 俊 |
| (心 理 学) | 石 原 岩 太 郎 |
| (教育方法) | 植 村 光 治 郎 |
| (病 理 学) | 伊 藤 信 義 |
| (経済社会学) | 吉 本 盛 昭 |
| (絵 画) | 須 田 國 太 郎 |

昭和29年度頭書科目の講師(非常勤)に採用する。期間は昭和30年3月31日までとする。

| | |
|--------|-----------------|
| (体育理論) | 廣 野 健 次 |
| (各 通) | (心 理 学) 黒 田 源 次 |
| | (音楽美学) 張 源 祥 |

昭和29年度頭書科目の講師(非常勤)に採用する。期間は昭和29年9月30日までとする。

| | |
|-------|----------------|
| (各 通) | (保健実習) 堀 井 マツ子 |
| | (林業実習) 岸 田 日出夫 |

昭和29年度指導補助員(非常勤)に採用する。期間は昭和30年3月31日までとする。

4月1日

文部教官(奈良学芸大学助教授)
牧 野 英 三

補察々務係を免する

文部教官(奈良学芸大学講師)
平 田 善 文

補察々務係を命ずる

文部教官(付属中学校教諭)
藤 井 憲 司

休職期間を昭和29年9月30日まで更新する

4月10日

文部事務官(会計課)
松 井 三 郎

辞職を承認する

4月14日

文部教官(付属中学校教諭)
沢 田 稔

本庄と改姓

5月1日

石 井 滋 規
文部教官(奈良学芸大学助手)に採用する。
(取替第一講座)

事務見習(学生課)
平 野 原 孝

雇に昇任させる

雇(研究補助員)
粕 田 亮 子

付属幼稚園へ配置換する

5月10日

雇(学生課)
河 本 吾 代 子

官方取員結核対策要綱により療養期間を
昭和29年8月9日まで延伸する。

雇(教務課)
龜 田 ケエノ

成川と改姓

昭和29年度文部省内地研究員決定

4月14日付文部省大学学術局長から下記のとおり決定の通知があった。

文部教官(奈良学芸大学助教授)
牧 野 英 三

研修場所 東京芸術大学音楽学部

研修題目 和 声 学

期 間 自昭和29年5月1日

至昭和30年2月28日

なお東京における同教官の御住所は次のとおり
東京都台東区谷中初音町高橋南順方

昭和29年度文部省科学研究費 交付金及び助成補助金決定

文部教官(奈良学芸大学教授)

阿部 孫四郎

研究題目 神経流波動の同位的研究

交付金 40,000円

文部教官(奈良学芸大学教授)

土橋 寛

研究題目 民謡における詞形と曲形の研究

交付金 100,000円

文部教官(奈良学芸大学助教授)

阿部 正雄

研究題目 カント宗教哲学の研究

助成額 20,000円

文部教官(奈良学芸大学助教授)

木村 博一

研究題目 大和木綿の基礎的研究

(大和産業史研究の一部)

助成額 20,000円

A級大学と判定される

去る4月13日付文大庶第315号によって文部省
大学学術局長から下記のような通牒まいりましたの
で参考までに全文を掲げます。

文大庶第315号

昭和29年4月3日

奈良学芸大学長殿

文部省大学学術局長

粕田 清助

大学設置条件中の教員組織に

関する部分の解除について、

さきに御提出のありました大学整備充実状況報告書
に基き、大学設置審議会において審議を重ねました結
果、大学設置(学部学科の増設を含む)の際の条件中
教員組織の充実につき当分の間大学設置審議会の協議
を必要とするこの条件(教員の増減等の条件のある
場合は、これを含む)は、今後下記の学部について
は、解除して差しつかえないとの結論を得ましたので
通知します。

なお、大学設置審議会における「教員の資格につ
いての申合せ」は、概ね別紙のとおりでありますから、
参考までに送付します。

なお又、貴学の「教員選考規程」を2部当局庶務課
長あて御提出下さい。

記 学芸学部

教員(医学、歯学関係を除く)の
資格についての申合せ

一 教授の資格については、次の各項による。

1. 博士の学位(日本における博士の学位と同等と
認められる外国の学位を含む)を有し、教育上の
経験又は識見をもっている者。
2. 公刊された著書、論文、報告等により博士の学
位を有する者に匹敵する研究上の業績があり、教
育上の経験又は識見をもっている者。
3. 高等専門学校以上の学校において三年以上教員
の経験があり、教授上、学問上の業績がある者。
注、芸術、体育の諸学科については、展覧会、
体育会、品評会等において技術優秀の証明を得
た者等は、本項に準じて考慮する。

二、助教授の資格は、教授の資格に準ずるが、その程
度は、大体次の各項による。

1. 博士の学位を有する者。
2. 研究業績がある者。
3. 旧制大学の助教授又は専任講師の経験がある者。
4. 旧制大学の助手又はこれに準ずる取組として
二年以上在職し、研究上、教授上の能力があると
認められる者。
5. 旧制大学の大学院学生として二年以上在学し、
かつ研究上、教授上の能力があると認められる者。
6. 高等専門学校教授又は専任講師として在職し、
研究上、教授上の業績がある者又は能力があると
認められる者。

7. 大学卒業者(高等学校高等科教員免許状所有者
を含む)にあつては二年以上、高等専門学校卒業
者にあつては五年以上、高等専門学校の助教授と
して在職し研究上若しくは教授上の業績がある者
又は能力があると認められる者。

8. 担当学科に関連する収蔵ある研究所、試験所、調査所、
事業調査等において二年以上(高等専門学校卒業
者にあつては、五年以上)在職し、教育上、研究
上の業績がある者。
9. 芸術、体育の諸学科については、展覧会、体育会、品評
会等において技術優秀の証明を得た者で特に教授
上若しくは教育上の業績がある者又は能力があると認められる者。

三、講師の資格は、次の各項による。

1. 教授、助教授の資格に準ずる。但し場合によっては
所要の年限又は経歴を除いて考慮することかできる。
2. その他、教授能力があると認められる者。

教育奨学生の大きな福音

義務教育教員の「返還免除」制の確立 教育研究者

本誌才5号(昨年9月号)にてお知らせした法律264号によって大日本育英会法の一部が改正せられ、日本育英会と改称の上、内容的にも義務教育従事者及び教育研究者に対する育英資金の返還免除等の重要事項を盛り入れ、真の育英目的が大きく浮び上って来た。さらに本年度予算の執行によりいよいよこれら教育者に大きな福音をもたらしたわけである。以下その大略をお伝えしよう。

返還免除の措置と意義

研究者養成を目的とする大学院の奨学生と、義務教育教員養成を目標とする教育奨学生にたいする「返還免除」の措置については、昭和24年度から新学制によって、義務教育教員の計画養成の機関となった国立大学の教育学部または学芸学部に進学者に対して昭和25年度から学費を貸与することになったが、貸与を受けた学生が修業の後義務教育の取についた場合は、その貸与学費金の返還免除するという予定の下にとりあえすその在学中返還を猶予されて今日に至つたのである。これらの大学の教員養成課程に在学する学生に対する奨学計画は、政府の方針に基づき育英会が新たに教育奨学生の制度を実施するものとして昭和25年度から発足した。これはいうまでもなく国が義務教育に従事する教員の養成を重視し、一定の優秀な教員を確保しようとする方針のもとに樹立した計画養成の実施面の一端を育英会が担うことになったものである。教育奨学生の採用率は他の大学一般奨学生に比して遥かに多く、対照になっている学生総数の約80%にも達する実情である。また高次の学術研究者の養成を目的として昭和18年から東京など2大学の大学院に在学する者に対して特別研究生として給費制度があったが、この制度が昭和24年から日本育英会の研究奨学生として貸与制度に変わった。しかしこれ等の者が修業後一定の教職または研究に従事したときは、義務教育教員の場合と同様にその貸与学費金の返還を免除することが強く要望されていたが、昨年の改正ではこれらの懸念も解決された。この対象となつたのは義務教育免除を一般大学に拡張されたのと同趣旨であつて国が研究者の養成を重視する一つのあらわれといふよう。

なお、この場合の返還免除を一級の死亡などの場合と区別するため特別免除と呼ぶことになった

義務教育に関する特別免除

義務教育に従事することにより特別免除を受ける要件及び主要な事項は次の五点である。

1. 大学に2年以上在学してその間に学費の貸与を受けたこと。
2. 大学を卒業、修業または退学後一年以内に義務教育の取につくこと。(これは義務教育教と呼ばれる。)
3. 2年以上継続してその取にあること。
4. 免除の対象となる金額は大学在学中に受けた奨学金に於けること。
5. 免除は貸与を受けた期間の2倍の期間在取したときはその全額、2倍に満たないときは在取期間に比例すること。

大学2年以上在学することを要件としているが、その大学は教育奨学生の対象となっている国立大学の学芸学部、教育学部に限らず、他の如何なる種類の大学でも要支えないことになっている。

義務教育取というのは、小中学校や中学校(首、ろう学校などの小学部や中学部なども含めて)の校長、教諭、養護教諭または講師などの取であつて、いづれも常時勤務するもので、しかも免除の対象となる金額は大学在学中に受けた金額に限られ高等学校や大学院在学中に受けた奨学金は含まれないものである。つきに卒業、修業または退学後一年以内に前記の取につくことを要件としているが、この期限は傷い疾病によるか、または義務教育取につく意志があつても教員の需給関係そのほか、直ちに任むを得ない理由によつて就職できないと認めるときには更に一年以内に限り延期することになっている。しかしこの2年を超えては、いかなる場合でも免除の対象としては認められない。

教育研究の取に関する特別免除

教育研究取に従事することにより特別免除を受ける要件及び主要な事項はつきの五点である。

1. 大学院に2年以上在学してその間に学費の貸与を受けたこと。
2. 大学院を修業または退学後一年以内に教育または研究の取につくこと。(これは教育研究取と呼ばれる。)
3. 2年以上継続してその取にあること。
4. 免除の対象となる金額は大学院に在学中に受けた奨学金であること。
5. 免除額は貸与を受けた期間の3倍の期間在取したときは全額、3倍に満たないときは在取期間に比例すること。

この場合の教育研究取の範囲は、大学の学長、教授、助教授、講師または助手の取におよび文部

大臣の指定する試験所、研究所または文教施設において教育または研究を行う者の取で、常時勤務するものに限られている。文部大臣の指定することとなっている研究機関については、近くその指定が行われることになっているが、たいは国の行政機関または地方公共団体の設置するものや民間学術研究機関中の若干が指定を受けるものと思われる。なお、大学院修業または退学後一年以内にその取に就くことを要件としているが、この期間については、前記の義務教育職員または高等学校の校長、教諭講師など常時勤務するものに限り、その在職期間五年以内は、就取期限を延長することとできることとなっている。また上述の一年以内の就取期限は、偶い疾病または真にやむを得ない事由によつて就取できないとき、さらに一年以内延長することと認められている。しかも免除の対象となる奨学金の額は大学院に在学中に受けた金額に限られ、大学または高等学校に在学中に受けた奨学金は含まれない。

昭和28年度職員慶弔基金 決算報告

I 収入の部

一金 152,119円

金 18,032円 前年度繰越金

内訳 金/33,350" 会費収入

金 737" 預金利子

II 支出の部

一金 120,250円

結婚祝 9件 27,000

出産祝 6 6,000

餞別金 9 28,000

水害見舞 21 28,000

病氣見舞 4 12,000

弔慰金 5 17,000

事務費 1 2,250

III 残高

一金 31,869円 次年度へ繰越

職員住所変更

所属 氏名 新住所

地学講座 島倉巳三郎

職業科一講座 石井滋規

附属中学校 本庄 稔

教務課 成川+エノ

附属農場 堀本 実

昭和28年度卒業生就職状況調査

(以下更新状況欄による)

第1表 (就職の現況)

4月20日現在

| 区別 | 数 | 男女別数 | 区別 | 人員 |
|-----|--------|--------|-------------|----|
| 卒業生 | 98 | 男 94 | 就職者 | 91 |
| | | | 未就職者 | 0 |
| | | | 身体障害で就職希望なし | 3 |
| | | 女 4 | 就職者 | 3 |
| | | | 未就職者 | 0 |
| | | 就職希望なし | 1 | |
| 修了生 | 111 | 男 56 | 就職者 | 38 |
| | | | 進学 | 13 |
| | | | 未就職者 | 1 |
| | | | 身体障害で就職希望なし | 1 |
| | | 女 55 | 就職者 | 43 |
| | | | 進学 | 1 |
| | | | 未就職者 | 5 |
| | | | 身体障害のため保函 | 3 |
| | 就職希望なし | 2 | | |

第2表 (就職者の性別地域別調)

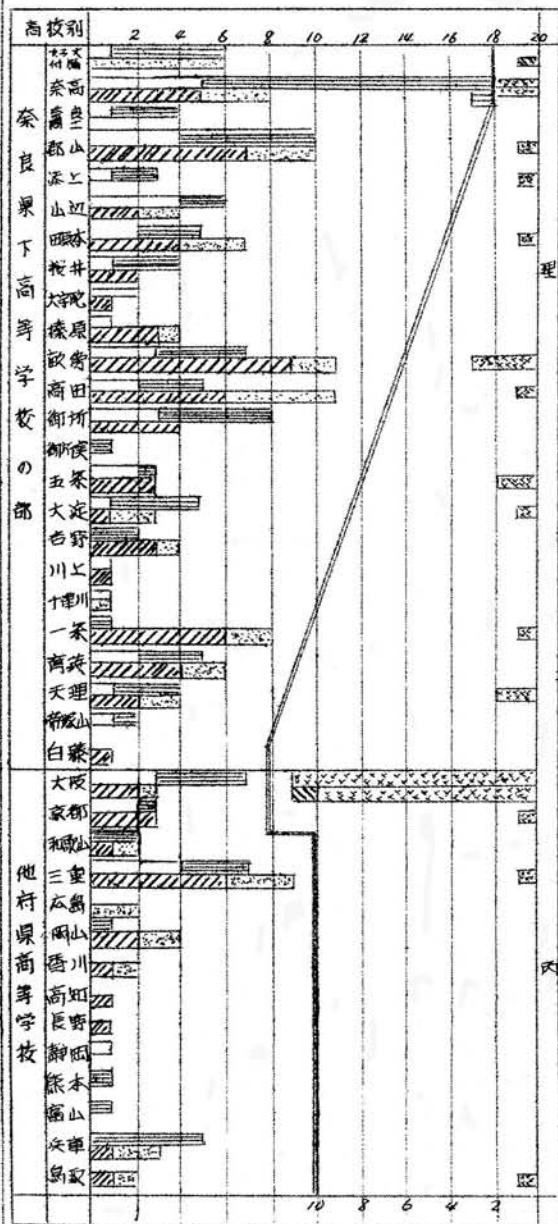
| 府県別 | 郡市別 | 男 | 女 | 計 |
|-----|--------|-----|----|-----|
| 奈良県 | 奈良市 | 5 | 1 | 6 |
| | 大和高田市 | 1 | 2 | 3 |
| | 大和郡山市 | 2 | 2 | 4 |
| | 天理市 | 2 | 1 | 3 |
| | 添上郡 | 6 | 0 | 6 |
| | 山辺郡 | 5 | 0 | 5 |
| | 生駒郡 | 10 | 1 | 11 |
| | 磯城郡 | 11 | 3 | 14 |
| | 宇陀郡 | 5 | 3 | 8 |
| | 高市郡 | 2 | 4 | 6 |
| | 北葛城郡 | 10 | 2 | 12 |
| | 南葛城郡 | 2 | 1 | 3 |
| | 宇智郡 | 2 | 2 | 4 |
| | 吉野郡 | 14 | 7 | 21 |
| 他府県 | 小計 | 97 | 29 | 106 |
| | 大阪市内 | 21 | 18 | 39 |
| | 大府下 | 11 | 1 | 12 |
| | 京都府 | 12 | 2 | 14 |
| | 三重県 | 2 | 5 | 7 |
| 計 | その他の府県 | 2 | 0 | 2 |
| | 計 | 48 | 26 | 74 |
| 合 | 計 | 125 | 55 | 180 |

第3表 (就職先調)

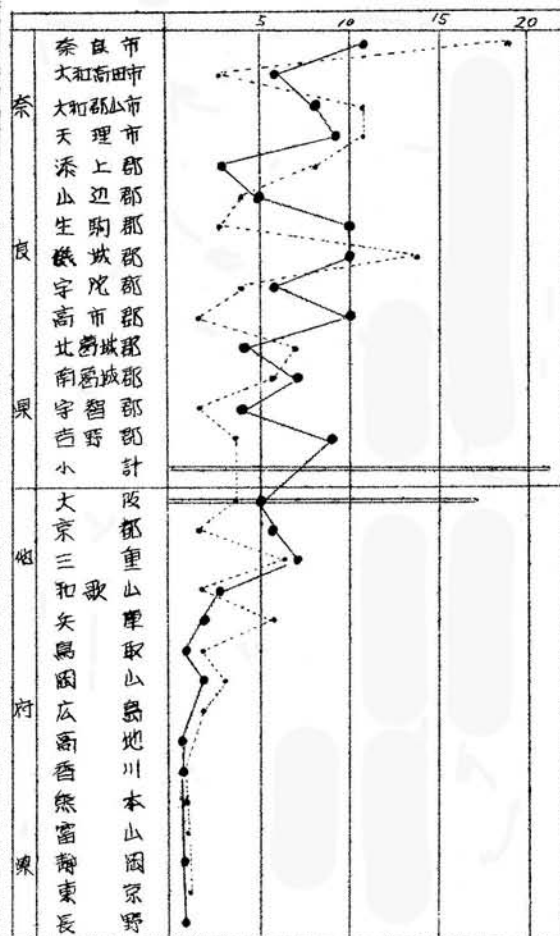
| 区別 | 就職先 | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 卒業生 | | 0 | 28 | 53 | 10 |
| 修了生 | | 2 | 62 | 19 | 2 |

29 年度入学生調査表

第一表(出身学校別調査)

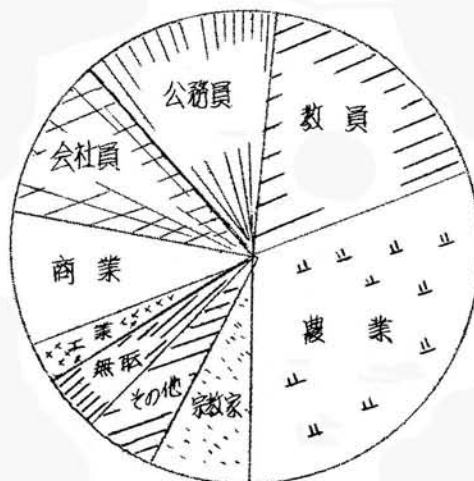


第2表(出身地別入学生調)

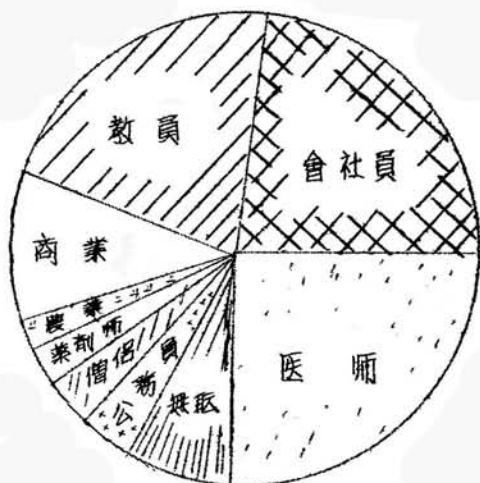


第3表 (家庭職業別)

(学芸学部)



理 丙



昭和30年度入学者
 選抜方法のうち 学力検査実施
 科目の種類とその選択方法

| 教科 | 科目 | 選択 科目数 | 理科内類 を希望する 場合 |
|-----|-----------------------------------|-----------|---------------------|
| 国語 | 平易な漢文を含む | 一科目 | 一科目 |
| 社会 | 一般社会、日本史、 世界史、人文地理 時事問題の中から | 一科目 | 一科目 |
| 数学 | 一般数学、解析 / 解析又、幾何の中 から | 一科目 | 二科目 |
| 理科 | 物理、化学、生物 地学、農業の中か ら | 一科目 | 二科目 |
| 外国語 | 英語、独語、邦語 の中から | 一科目 | 一科目 |
| | 計 | 五科目 | 七科目 |

備考

1. 美術科及び体育科(保健専攻を除く)を
志望する場合は以上のほかそれぞれの専攻
しようとする技能科目についてテストを受
けなければならない。
2. 進学適性検査は実施しない。

新着図書紹介

附属図書館

3月分残り

| 著者 | 書名 |
|---------|------------------------|
| 田 淵 忍 | 法 学 概 論 |
| つださうきち | 『史の扱い方 |
| 家 宮 隆 誠 | 人間性と行 為 |
| 電気通信学会編 | 通信工学大綱 無線編 |
| 徳川 宗 敬 | 江戸時代における 造林技術の史的探究 |
| 戸田 貞三 | 社会学大系 家族 |
| 友田 不二男 | 面接法の技術 |
| 豊田 武 編 | 新日本史大系 中世社会 |
| 豊田 実 | アメリカ英語とその文法 |
| 永井 成三郎 | 農業総典 |
| 中川 善之助 | 民法 上 |
| 中山 伊知郎 | 経済発展の理論 |
| 難波 政 吉 | 社会学 上 |
| 西谷 啓治 | 都市と農村 |
| 田中 義雄 | 産業指導 根本論 |
| 橋本文夫 | 高級注文解説法 |
| 畑 一 夫 | 有機化学要説 |
| 林 于 別 | 有機化学 |
| 東京 隆 | 権 力 |
| 平野 義太郎 | 日本資本主義社会の機構 |
| 福 武 直 | 社会学の現代的課題 |
| 藤沢 信也 | 顕微鏡写真技術 |
| 堀 田 律男 | 面接のしかた |
| 牧野 共也 | 青年学級の手びき |
| 松本 五 楼 | 社会学概論 |
| 栗野 頼之祐 | 土壤肥料総典 |
| 井手 則雄 | 出た史料はギリヤ史の研究 以下 4月分 |
| 伊藤 整 | 美術のみかた |
| 井上 武士 | 女性に関する十二章 |
| 辻 波 書 哲 | 音楽指導法 |
| 〃 | 岩波講座、文学 |
| 〃 | 啄木全集 |
| 宇野 弘 藏 | 二葉亭四迷全集 |
| 梅谷 年七郎 | 恐慌論 |
| エリス | 形質と環境 |
| 堀 田 重人 | 現代経済学の展望(理論) |
| 岡本 重雄 | 女性心理学 |
| 大寺 鬼代夫 | 国家学研究 |
| オジゴフ 楠 | ロシア語辞典 |

大野清三郎
角川書店

ジョーンズの経済学

昭和文学全集

夏目漱石集

川端康成

横光利一

大佛次郎

小关美子

高村木太郎

萩原朔太郎

阿部次郎

小宮豊隆

カザツク

東田義人

片野 一郎

荷見秋次郎

"

"

河出書房

"

"

グリーン

田中面二郎

高橋義孝

計開経済会

児玉幸男

古林茂男

西郷信綱

創元社

"

高橋寅次郎

高木市之助

田中耕太郎

谷津直秀

テラス

川口俊郎

東洋大学哲学研究

中山伊知郎

日本教員組合

日相動物化協会

スルー

辻通四郎

龍代清

白水社

羽仁五郎

斎藤勇

斎藤深

サトウハチロー

岩瀬正和

下巻院

シヨラム

学園社会科学研究

角川書店

流水の香後の市 上下

伝記 施 説

衛生教育概論

学校衛生概論

養護実習書

現代中国文学全集 (巻1 新編)

現代文学論 大家

世界大思想全集

内部の男

運命の下の子

計測ガイドブック

近世農村社会の研究

質銀形態論

日本文学の古典

現代随想全集

現代日本詩人全集

体系金融辞典

古文芸の論

世界法の理論 1.3

動物分類表

細菌細胞

中国思想史

日本の顔

日本の教育

完璧な自転車法規全集

インドの発展と

近代函数論

現代在野曲線集

イタリア社会史

英国詩文選

明解公衆衛生学

チャップリン—人々作品

標準和声学

マスコミュニケーション

昭和文学全集

山本有三集

永井荷風

坂 辰雄

谷崎潤一郎集

寺田寅彦

石坂洋次郎

武者小路実篤

大岡昇平

三浦綾子

河上徹太郎

尾井勝一郎

中村文夫

橋田寿賀子

丸山 誠

三島由紀夫

南 博

湊 正 雄

宮下孝雄

村山 貞 雄

盛 寿 雄

守 安 正

文 部 省

"

安 田 貞 雄

高 村 紹 之 郎

柳 沢 文 彦

柳 田 十 郎

山 岡 望

山 口 清 三 郎

山 中 寿

山 田 清 人

山 田 盛 太 郎

山 田 雄 三 郎

湯 川 秀 樹

湯 本 信 夫

吉 富 聖 夫

ラスタ

東 宮 隆 義

ラット

樋 口 大 祐

レイシ

永 永 俊 郎

明 功 君

ワット

國 部 四 郎

和 歌 森 太 郎

"

和 田 鶴 蔵

"

和 達 清 夫

獅子文六集

宮沢賢治

芥川竜之介

志賀直哉集

徳田秋成集

西園寺公と政局 3—8

ソヴェト経済地理

インフレーション

アメリカ合衆国史

明治大正詩史、上中下

経済学辞典

スターリン伝

エヴェレスト登頂記

動物生化学

各種建築構造図説

丸山 誠

三島由紀夫

三島由紀夫作品集

日本人の心理

地層学

意匠学

教育実習学

法の概観

お栗子の厂史

学校の行く就転指導

転業指導主任の手引き

栽培学汎論

精神病理学総論、上

食品の衛生

真実生きる道

わか有救化学

生物の厂史

格の用法

青年学級

日本資本主義分析

近代経済学辞典

非局所場の理論

学習評価

政治概論

アメリカデモクラシー

社会調査

社会的階級の解

転業辞典 (転業分類)

" (〃解説)

植民地従属国の厂史

厂史教育の確立と前進

日本社会の形成

日本国憲法要義

法 学 概 論

現象の事典

奈良学芸大学々報 第13号

奈良市登大路町23 奈良学芸大学商部

昭和29年5月15日発行